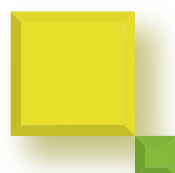
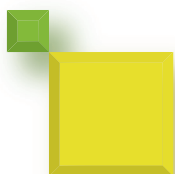


企業





株式会社 エックス都市研究所

EX Research Institute Ltd.

Environmental and Regional Planning, Research and Consulting

エックス都市研究所は「持続可能な脱炭素社会」をデザインし、
プロデュースする専門家集団です。

EX Research Institute Ltd. Environmental and Regional Planning, Research and Consulting

商 号	株式会社 エックス都市研究所
創 業	1971年(昭和46年)3月12日
従業員数	122名
本社所在地	東京都豊島区高田二丁目17番22号
電 話	03-5956-7500
F A X	03-5956-7520
e - m a i l	exinfo@exri.co.jp
U R L	http://www.exri.co.jp/

●事業概要

日本・アジアにおける地域・都市及び環境問題の解決、持続可能な脱炭素社会の形成に向けた政策研究、計画作成、プロジェクトの計画から現実化までをプロデュースしています。

《持続可能な地域都市づくり・

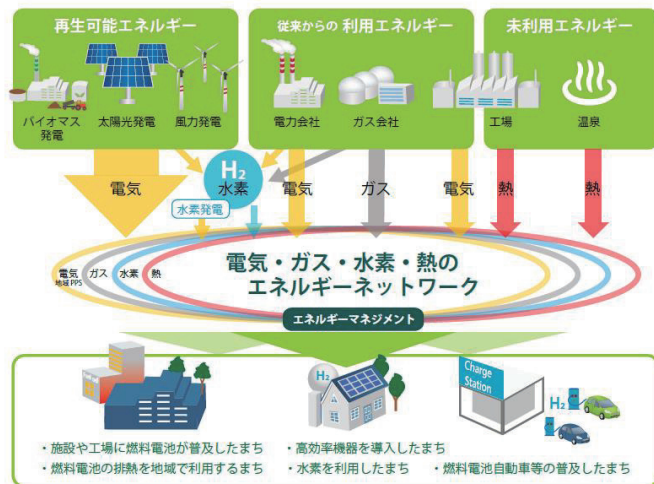
防災・交通・景観に関する政策／事業》

人口減少や超高齢社会といった都市政策・都市計画において対応すべき社会的課題を確実に捉えながら、各種調査・計画策定、制度・施策の構築や事業化、さらにはまちの運営に至るまで、一貫して支援します。客観的なデータ分析に基づく計画策定、地域特性を踏まえた調査分析により精度の高い成果を提供します。



《温暖化・再エネ・省エネ・創エネ・地域エネルギーに関する政策/事業》

国の「地球温暖化対策計画」に位置付けられた大幅なCO2排出量削減目標の達成に向けて、環境・地球温暖化対策に関する計画策定、エネルギー利活用の計画策定及びそれらの事業計画の策定・評価・事業化支援など、ソフト・ハード両面に対する解決策を提供します。



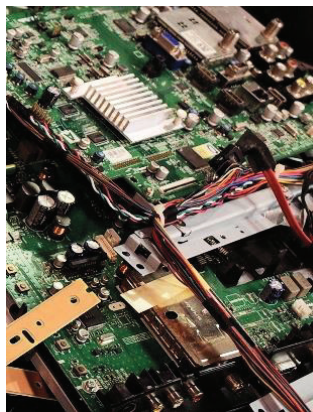
《低炭素型廃棄物・資源循環・エネルギーに関する政策/事業》

持続可能な資源利用の手段として国際的にも注目されている廃棄物分野の低炭素化及び地域資源循環の高度化に対し、地域特性及びバイオマスなど等の素材の特性に配慮した企画提案、基礎調査、計画策定、事業化まで一貫して支援します。



《環境リスク管理に関する政策/事業》

持続可能な資源循環・化学物質コントロールの両立を目指すとともに、化学物質のライフサイクル全体を通じた環境リスクの低減を図るため、様々な領域・分野において、基礎的調査から政策提案に至るまで各種問題解決・提案を行い、環境リスク評価とそれに基づく管理による人の健康の安全確保と生態系の保全に貢献します。



《国際環境に関する政策/事業》

日本で培った経験・知識をもとに国際環境条約に関する国内外の関係機関との交渉・実施を支援すると共に、開発途上国を中心に、廃棄物管理・資源循環、気候変動対策、化学物質管理などの環境分野における政府の制度づくり、事業実施、民間企業の事業展開等について、調査、計画策定、能力向上のための技術支援などの解決策を提供します。



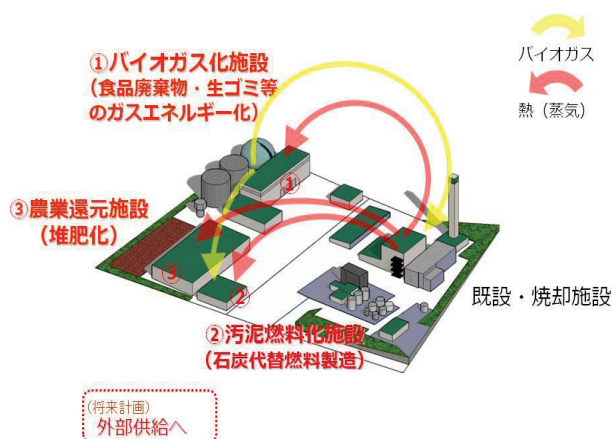
《環境政策・環境経済・環境教育に関する政策/事業》

人々の環境配慮行動を促進するために、各種環境政策を通じて国や地方公共団体の新たな政策や事業を支援しています。環境事業の実現を支援するため、環境事業が地域に与える経済的効果を定量化します。環境教育の推進にあたっては、事業者や市民とのつながりを大切にすることによって、事業効果を高めています。



《都市・環境に係る事業化支援・施工監理に関する政策／事業》

一般廃棄物・産業廃棄物に関する処理計画、施設整備計画、施設設計・施工監理、施設運営・維持管理計画策定、事業の立ち上げ支援など等を行っています。さらに、廃棄物処理施設整備に必要となる生活環境影響調査や条例アセスに係る環境影響評価等の業務を行っています。



綠華環保科技股份有限公司
(Refine Environmental Protection
Technology Co.,Ltd.)
湖州綠華環保科技股份有限公司
(Huzhou Lvhua Environmental
Technology Co.,Ltd)
株式会社リファインテクノロジー
(Refine Technology Inc.)

U R L : <http://www.huzhou-lvhua.com/>
連絡先 : rei.akito@refine-technology.com

持続可能な資源循環を目標し、環境にも人にも優しい世界をつくる



研究分野キーワード：環境負荷低減技術および保全修復技術関連、廃棄物処理、環境微生物（堆肥、土壌修復、水質浄化）、環境政策、環境社会システム

主な出身大学：正会員 黎 明（れい あきと 名古屋大学大学院環境学研究科）

正会員 呉 書文（ご しょうぶん 神戸大学大学院経営学研究科）

綠華環境科技股份有限公司（綠華）は浙江省温州市ハイテク産業区において、中国「海外ハイテク人材招致プロジェクト」を通して日本留学帰国者グループが設立しました。当社の日本オフィスは、東京都江東区有明3-7-26有明フロンティアビルB棟9階にあります。当社は中国環境問題の統合的な解決策に力を入れ、資源再利用生態産業チェーンを構築し、より良い環境保全

型社会に向けて取り組んでいます。現在、一般廃棄物を対象に、微生物による資源化処理方式を応用し、堆肥化処理システムの開発、施設運営など総合的な環境マネジメント事業を展開しています。中国の都市部・農村部における廃棄物を合理的に、有効的に収集、分別、資源化できるよう、努力し続けています。

研究概要

1. 中国で増え続ける新型廃棄物処理施設

当社は浙江省をはじめ、四川省、陝西省、山西省など各地域の農村地域を中心に、有機廃棄物堆肥処理機と低温熱分解処理装置を備え「緑華生活廃棄物資源化処理施設」を普及展開しております。人口が集中している都市では、集中焼却処理が可能です。農村部ではなかなか難しいものです。農村部では村ごとに人口が分散しており、村の財政も少ない為、大規模な廃棄物焼却施設を建設・維持するのが困難であります。また、都市部の集中焼却処理施設へ運送するコストが大きく（ほとんどの場合、片道1時間以上、一日2、3往復が必要）、村の廃棄物管理部門の悩みでした。緑華が展開している処理施設では、村の人口や廃棄物発生量に応じて、生ごみを堆肥する有機廃棄物堆肥処理機と、可燃ごみを蒸し焼きする低温熱分解処理装置を設置することにより、村の生活ごみを村の中で減量化、資源化することが可能となります。さら

に、同じような処理施設を普及し、農村部の廃棄物を効率的に分散化処理することを目指しています。今後、都市部の学校、社員食堂、ホテル、病院などの大型施設にも小型分散処理施設を促進していきます。

2. 緑華オリジナル廃棄物処理システム

有機廃棄物堆肥処理機は緑華が独自開発した新世代の密閉式微生物発酵装置です。環境にやさしい、高い省エネ性、高効率かつ自動制御など様々な優れた機能を備えた一体化処理機です。自宅町団地、社員食堂、レストランやホテルなど幅広く適応され、毎日の有機廃棄物を微生物処理により、現地化・減量化・無害化・資源化できます。低温熱分解装置は一般社団法人日本有機物低温熱分解処理装置普及振興機構（JALOA）と共同開発・製造した小型炭化装置です。従来の焼却炉とは異なったシステムで、化石燃料等は一切かからず、ダイオキシン等の排出もきわめて抑制され、地球環境を

配慮した廃棄物処理装置です。
鉄・陶器・貝殻・ガラス・銀紙・
ガラス繊維等以外の有機物はほとん
どが処理できます。

3. 廃棄物の資源化処理に関心 が高まる中国

13億人を抱えている中国では、
経済活性や生活スタイル変化など、
一人当たりの廃棄物発生量がますます
増えています。一方、これまでの埋立
処理ではすでに立地限界に達し、大
規模な集中焼却処理施設は建設費用
が高く、運営管理の仕方やコスト管
理も問題視されています。現在、中
国各地で廃棄物の減量化、そして有
効資源化への関心がますます高まっ
ています。我々緑華は中国の廃棄物
資源化に全力に取り組み、日本のパ
ートナー企業や技術者の方とともに
、日本技術を生かした廃棄物処理シ
ステムの開発や地域における廃棄物
資源再生化フローを生かした環境
ビジネスを展開していきます。



①中国で増え続ける
新型廃棄物処理施設 (1)



①中国で増え続ける
新型廃棄物処理施設 (2)



①中国で増え続ける
新型廃棄物処理施設 (3)



②緑華オリジナル廃棄物処理システム
(1)低温熱分解処理装置



②緑華オリジナル廃棄物処理システム
(2)有機廃棄物堆肥処理機



②緑華オリジナル廃棄物処理システム
(3)有機廃棄物堆肥処理機



③廃棄物の資源化処理に
関心が高まる中国 (1)



③廃棄物の資源化処理に
関心が高まる中国 (2)



③廃棄物の資源化処理に
関心が高まる中国 (3)